



## 学校評議員会の開催 — 学校評価と次年度に向けて —

3月2日(金)に学校評議員会を開催しました。本校の評議員は、学校関係者と地区在住者の4名で構成されています。年間通して学校の教育活動に接していただいています。評議員会では、学校教育活動や学校評価をもとにご意見を伺っています。以下は学校評価です。

### 1 評価概要

(1) 評価形式：無記名 各項目4段階評価(平均評価から傾向を考察)

(2) 評価者：4～6年児童、保護者(PTA役員)、教職員

(3) 評価時期：平成30年1月

### 2 評価結果

#### (1) アンケート結果

評価：4とてもそう思う 3少しそう思う 2あまりそう思わない 1全然そう思わない /未調査

|      | 項 目                     | 評 価 者 |      |      |
|------|-------------------------|-------|------|------|
|      |                         | 児童    | 保護者  | 職員   |
| 学校運営 | 楽しい学校生活                 | 3.41  | 3.61 | 3.41 |
|      | 家庭への連絡や情報提供             | 3.50  | 3.18 | 3.45 |
|      | ESD(地域とかかわる・つながること)について | 3.29  | 3.20 | 2.55 |
| 学校行事 | 運動会の持ち方                 | 3.59  | 3.77 | 3.76 |
|      | 総合学習発表会の持ち方             | 3.46  | 3.48 | 3.48 |
| 教科指導 | 分かりやすい授業                | 3.61  | 3.55 | 3.41 |
|      | 授業に集中するような工夫            | 3.27  |      | 3.28 |
|      | 思いや考えを意欲的に発表する工夫        | 3.03  |      | 3.10 |
| 生徒指導 | あいさつ                    | 3.02  | 3.11 | 3.52 |
|      | 児童の悩みや相談などへの対応          | 3.27  | 3.20 | 3.48 |
|      | いじめなどのない楽しい学級づくり        | 3.55  | 3.45 | 3.62 |
|      | 児童理解(交友関係・家庭環境など)       |       |      | 3.28 |
| 人権   | 学級の人や友だちを大切に生活する指導      | 3.47  | 3.48 | 3.66 |
|      | 言葉遣いの指導                 | 3.06  | 2.93 | 3.62 |
| 環境   | 安心して過ごせる環境              | 3.25  | 3.30 | 3.69 |
|      | 美しい学校にする取り組み            | 3.45  | 3.25 | 3.45 |
|      | 登下校中の安全                 | 3.22  | 3.20 | 3.24 |
| 防災   | 学校内で被災した場合の対応           |       |      | 3.00 |
|      | 学校外で被災した場合の対応           |       | 2.43 |      |

#### (2) 考察

##### ①学習・学校行事

- ・ 運動会、総合学習発表会といった学校行事は、児童・保護者・教師ともに評価が高く、三者とも関心の高さが伺えます。活動とともに運営面でも児童を生かし、生き生きとした姿をHPや学校学年だより等で積極的に発信することでさらに関心は高まっていくものと考えます。
- ・ 分かりやすい授業づくりについての評価が高いのは、これまでの教師の様々な手立てが子どもたちに受け入れられていると考えられます。一方で、自分の思いや考えを交流するのが苦手だと考える児童も多く、シンキングツールなどを取り入れ、指導方法を工夫しようとしています。成果に結びつくまでもう少し時間が必要と思われます。

##### ②学校生活・人権

- ・ コミュニケーションスキルを高めるための指導の成果が表れ、友達を大切に生活する態度に結びついているようです。

- ・ いじめのない学級づくりについては、人権教育の取り組みが着実に積み重ねられていることであると思われますが、「もう少し話を聞いてほしい」という声もあります。
- ・ あいさつについては、集団では元気よくできる児童が多いですが、個別には小さい声の児童も多く、一人一人の意識を高める必要があります。
- ・ 言葉遣いの指導には課題が多く、特に保護者が心配している様子が伺えます。

### ③その他

- ・ 学校外で災害に遭ったときの対処の仕方に、児童も保護者も不安があることがわかります。

## (3) ESDについての意識調査【平成30年2月 全校アンケート】

| 数値は「思う」と答えた児童 (%)                   |    |
|-------------------------------------|----|
| 甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いますか。              | 91 |
| 甚目寺を自分の「ふるさと」として、大切にしたいと思いますか。      | 89 |
| 甚目寺の現在や未来のために、何か考えたり行動したりしたいと思いますか。 | 80 |

- ・ 「ふるさと学習」の取り組みを全学年で体系化し、見学・取材活動を通して先人や地域の人々の思いについて調べ、子どもたちが考えたことを発信したり、できることに取り組んだりする活動を積み上げてきたことにより、地域を大切にしたいという思いは高い水準にあります。
- ・ 準備を含めた活動に要する時間について、他の教育活動との調整が課題となっています。
- ・ ESDの考え方を深める授業展開について職員研修を行い、1単位時間内にもESDの視点を教師が意識することに努めました。

## 3 学校評議員会の会議録より（※ 学校評価を示し意見交換 平成30年3月2日開催）

- ・ 言葉遣いについて「家で気になる」という声もあるが、発散の場として捉え、親が子どもの心を捉える機会としてほしい。子どもにとって公式の場である学校できちんとできていることが大切である。
- ・ 「先生は笑顔でいてほしい」という子どもの声がある。教師は「手本を示す」という姿勢を常に意識したい。
- ・ ESDについて「やらされ感」やマンネリ感はないか。主体的な取組となるような指導や活動内容を工夫するよい機会としてほしい。
- ・ 将来的に防災教育をどこかに組み込むことはできないか。
- ・ ESD先進校の実践例をもとに子どもたちのコミュニケーション能力の一層の向上を期待したい。
- ・ 学校支援ボランティアのスタンスとして、子どもに考えさせて背中を押すような姿勢が大切である。「待てる大人」でありたい。
- ・ 「早くできるようにさせたい」という大人の願いが強くなりすぎないように気をつけたい。子どものいろいろな芽を摘み取らないようにしたい。

## 4 今後の取り組み

- ・ 年間指導計画の改善・充実を図り、生活科・総合的な学習と他教科及び特別活動や道德との関連を重視しながら、調和の取れたカリキュラムの開発を目指します。
- ・ コミュニケーション能力を高める実践と平行して、人や地域と「かかわる」実際の体験活動を進める中で、道德、教科、各領域の一体化した教育活動を目指します。
- ・ 授業における意欲づけの工夫や発言しやすいように話型の提示などの実践を進めます。さらに「思考の見える化」と話し合い活動の充実により、児童相互が高め合うことができる授業づくりを目指します。
- ・ 授業をESDの視点で捉え、手立てや展開を工夫し、教職員の授業力向上を図ります。
- ・ ESDやユニバーサルデザインを意識した環境整備に努めます。
- ・ 他者を思いやる気持ちと態度の育成を図る活動の充実に取り組みます。
- ・ 時と場に応じた言葉遣いの指導と平行して、あいさつの活性化を図ります。
- ・ 防災・安全意識を高め、自分の身は自分で守るという意識を高めます。
- ・ 学校・保護者・地域との一層の連携により、地域全体で子どもを育てる意識を高めます。

